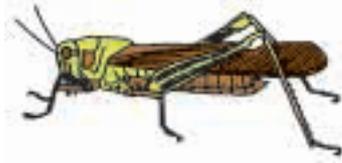


# [バッタの飼いかた]

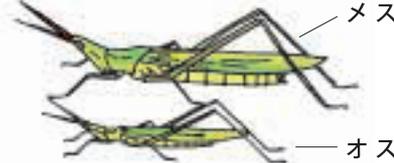
## ◎身近に見られるバッタ

【トノサマバッタ】



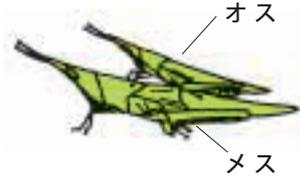
- ・オス3.5～4cm、メス4.5～6.5cm
- ・緑色から茶色までいろいろな色の個体がいる。

【ショウリョウバッタ】



- ・オス4～5cm、メス7～8cm
- ・オスは飛ぶときにキチキチと音を出す。

【オンブバッタ】



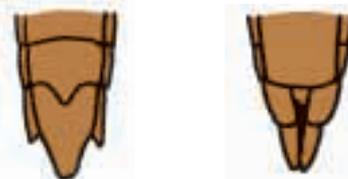
- ・オス2～2.5cm、メス4cm
- ・オスがメスの背にのっていることが多い。

- これらのバッタは5～6月頃に卵から幼虫が生まれ、2～3ヶ月程度の幼虫期を過ぎた後に成虫になります。成虫は8～10月に多くみられます。

- バッタのオスとメスは、大きさで違いがわかります。特に、オンブバッタ、ショウリョウバッタは、見た目でも大きさがずいぶん違います。

- トノサマバッタは、オスがメスよりも少し小さい程度ですが、おしりの先の形でも見分けられます。

トノサマバッタのおしりの先  
(はら側から見た形)



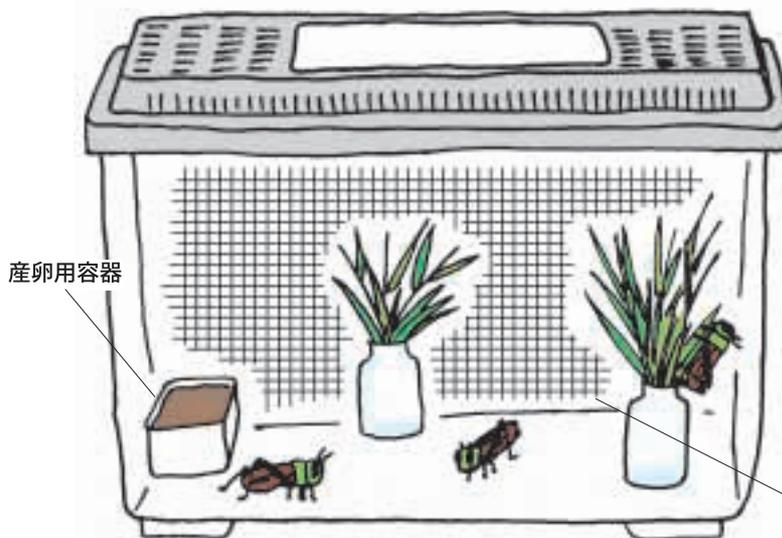
オス

メス

## ◎幼虫・成虫を飼う

- はばが約30cmのプラスチック水そうなら、トノサマバッタ、ショウリョウバッタで3～4頭、オンブバッタで10頭くらいが飼育できる目安。
- エサの植物は、水を入れた空きびんなどにさす(2～3個入れてとまりやすくする)。
- 土は入れなくてもよい。入れるとそうじがめんどろになる。

バッタの飼育容器



産卵用容器

- バッタは明るい場所を好むが、日のあたる場所にはおかない(容器の中の温度が高くなり、エサがすぐしおれてしまう)。

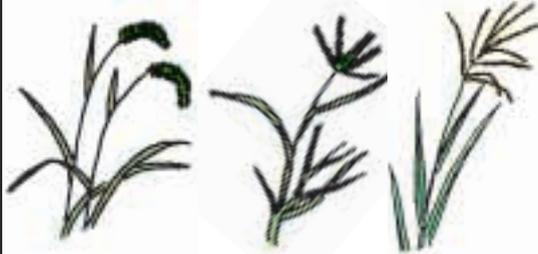
- エサは毎日または1日おきに、しおれる前に交かする。

- エサを十分に与えれば、きりふきはしなくてもよい。

目の細かい網を入れると止まりやすくよい

## エ サ

### トノサマバッタ・ショウリョウバッタ



エノコログサ      オヒシバ      ススキなど  
イネの仲間  
(ほとんどのバッタはこれでOK)

### オンブバッタ



ヨモギ      オオバコ      ギシギシなど

## 卵を産ませるには

成虫がうまく飼えるようになったら、図のような容器を使い、卵を産ませましょう。メスは卵鞘（スポンジ状のあわの中に卵がたくさん入ったもの）を土中に産みこみます。

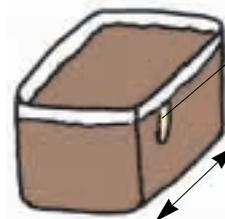
産卵のための土や砂は、ゴミなどを取り除き、フライパンで焼くか、電子レンジで10分程度殺菌する。

土を入れる深さは、バッタによって違う。  
オンブバッタ... 5 cm、トノサマバッタ... 8 cm、  
ショウリョウバッタ... 10 cm

土は表面がかわかない程度の、しめった状態にする。

フンやゴミを取り、土の表面をいつもきれいにしておく。そのままにしておくと、カビがはえる。

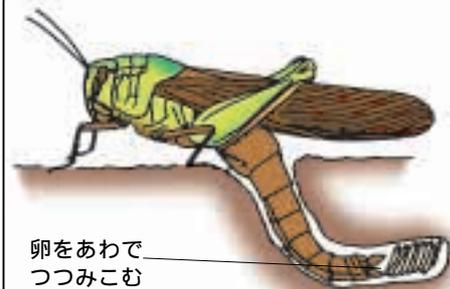
## バッタの産卵容器



容器のふちに産卵したときは、卵鞘が見える

はば：オンブバッタ10cm  
ショウリョウバッタ20cmくらい

## トノサマバッタの産卵の様子



卵をあわで  
つつみこむ

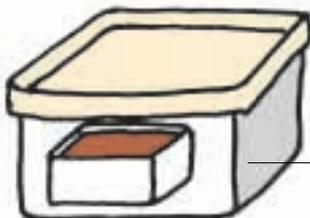
## 卵を産んだら

バッタが産卵していたり、容器の側面に産卵したあとを見つけたら、幼虫が生まれるまで容器ごと保存します。もし、産卵したかどうか分からないときは、表面の土をそっと取り除いてみましょう。スポンジ状の卵鞘があったら、産卵した証拠です。土をていねいにかぶせ、元の状態にもどします。

一つの卵鞘内に、オンブバッタは40個前後、トノサマバッタは50～100個の卵が入っています。

## 卵の保存

- ・卵の入った容器にはふたをしない。
- ・大きな容器はしっかりふたをする。



大きい容器は、卵の入った容器より、幅5cm以上、高さ2cm以上あればよい

容器は日のあたらない車庫などにおく。

暖房のかかる部屋にはおかない。

容器表面の土がかわいていないか、カビなどがいないか、ときどき調べる。